

「幕末維新 箱根戦争」

(テーマ)

房総半島（木更津）の譜代藩である請西藩主林忠崇（はやしただたか）は、鳥羽伏見の戦いの後、諸藩が官軍に恭順の意を表明する中、幕臣の遊撃隊とともに、官軍と小田原藩兵を相手に激戦を遂行した。無残にも破れながらも、林は東北の戦いに加わり、結局、家臣19人とともに、仙台で降伏した。東海道筋で起きた唯一の戊辰戦争とも言える箱根戦争の諸相と林忠崇らの生き様を見つめてみたい。

(要旨)

- 鳥羽伏見の戦いと官軍東上
慶応4年（1868）1月3日
幕府軍敗退
西郷軍隆盛率いる東征軍江戸へ
江戸の無血開城 4月11日
- 請西藩主 林忠崇と遊撃隊
林忠崇（21歳）
官軍の東上を知り、3月8日、木更津の陣屋に戻る。
請西藩・・・1万石の譜代大名 林忠崇は3代目藩主
江戸開城を不満とする幕府旗本御家人の遊撃隊（人見勝太郎と伊庭八郎）が
決起を促がす。
慶応4年閏4月に、林忠崇は遊撃隊との決起を図る。
房総 館山から海路で真鶴へ
遊撃隊約40人 請西藩士70人、その外脱藩兵士が加わる
- 小田原藩の対応、葦山から甲府へ
藩主大久保忠礼、協力を断る。

菫山代官、不在。

沼津藩主 水野忠敬を頼るが、甲府城代として甲府滞在

甲府を目指すが、途中、黒駒村に滞在

山岡鉄太郎の説得、また沼津藩からの伝言（沼津滞在を要請）

沼津に逗留

○ 箱根戦争

彰義隊壊滅 5月15日

新政府、小田原藩に対し遊撃隊への攻撃を命じる。

関所警護の小田原藩兵と交戦

小田原藩が佐幕派に一変、箱根の東征軍軍監を斬殺、5月20日 休戦

江戸の大総督府が門罪使を派遣

長州、鳥取、津、岡山の兵が急行、小田原藩に遊撃隊への攻撃を命じる。

小田原藩は急遽、勤皇派へ

箱根戦争開始 5月26日

官軍側 2700 遊撃隊と林軍、合せて273

官軍側は主に長州軍

銃撃戦から白兵戦へ

激しい戦い、伊庭八郎の負傷

敗戦

箱根から熱海へ敗走し、海路、館山へ

○ 東北へ転戦

旧幕府海軍 咸臨丸が館山に寄港

さらに、千代田形（軍艦）、長崎丸、大江丸（運搬船）が入港

会津救援のために仙台へ急行の予定

乗船者の選別、213人の内 140人に絞る

請西藩士30人を率いる

6月1日 出港

○ 東北での戦い

磐城平藩3万石、泉藩2万石、湯長谷藩1万5千石と

協力して、官軍と交戦

全兵力 約70人、請西藩20人、遊撃隊20人、他の兵30人

敗れて若松城へ 6月23日

会津の戦況悪化（会津藩の降伏 9月22日
仙台に入る

奥羽列藩同盟の解体 9月11日 米沢藩降伏
9月12日 仙台藩降伏

仙台藩が林忠崇を説得し、9月24日 林忠崇が部下とともに降伏 謹慎
(人見勝太郎と伊庭八郎は箱館戦争に参加)

- 東京へ護送
唐津小笠原家中屋敷（芝愛宕山下）に永預け
明治4年3月24日 弟忠広（家督相続）に預け換え
明治5年1月6日 罪を許される
- その後の林忠崇
旧領 請西村で帰農
陣屋跡を開墾
東京府の下級官員に採用 学事課勤務
函館へ渡り、商家の番頭
大坂府官員 明治23年 困窮生活

爵位授与 明治27年3月20日
男爵となる。
明治27年 9月 宮内省東宮職へ出仕 庶務課員
明治32年 7月 日光東照宮神職
- 昭和12年11月11日
林家菩提寺 芝愛宕下 青松寺
戊辰戦争請西藩戦没者の招魂祭70年祭 開催
- 昭和16年1月22日 豊島区高田南町の娘ミツの家で死去
享年94歳 最後の大名として死去
(旧広島藩主浅野忠勳が昭和12年死去)

(以上)